



プランティングフラワー
PLANTING FLOWER

看護師だからこそないと

プランティングフラワーって「存知ないですよね。
私のオリジナル手芸なんです。」

不要になったダンボールを使い、身近にあるものばかりを使って作る、花の手芸です。材料は主にラッピングペーパー、毛糸、包装紙、和紙などです。経費が余りかかるないので、施設などの手芸に向いています。

今までにない手芸だと自負しています。基本は、ダンボールの厚みを利用して、その表面にきれいな紙をはり、さらにラッピングペーパーなどで作った花びらを差し込んで花のアートを作ります。

材料の殆どは、身近にあるもの、不用品です。このレターラックの場合、ダンボール、ビデオカセットのケース2個、和紙、ラッピングペーパー、ビーズ、小枝などで作りました。不用品で作ったとは思えない美しさ、でしょ?。



「Jの手芸を考えたいきさつを書きたいと思います。」

当時、私は「Jの手芸」を持っていた、「Jの手芸」を何とか減らしたい!と、思っていました。でも、古紙が評価されない時代で、ダンボールは焼却するしかない状況でした。燃やせば一酸化炭素が出て、地球温暖化を加速させるし、何かに利用できないかと、思い巡らせていました。

職場では、お年寄りに手芸を楽しんでもらいたいと、職員は頭を悩ませていました。機能が低下してもでき、楽しくて、それなりのできばえのもの。そんなものが少しあるものではありません。

職場で生かす方法。いろいろ試行錯誤していくうちにたどり着いたのが、ダンボールの厚みを利用して、その表面に半立体の花のアートを作ることでした。お年寄りにもできる簡単なものを、四季折々に提供することができるなら、喜んで取り扱うだらうなところが出発点でした。

長瀬教子
プランティングフラワー開発者

2006年10月28日・29日 ブログ転載

埼玉新聞社

2010年3月10日 埼玉新聞社掲載記事転載

包装紙が花に変身 看護師考案プランティングフラワー



春日部市の社会福祉法人で働く看護師、長瀬教子さんが考案した「Jの手芸」が高齢者のデイサービス現場などで好評だ。身近にあるラッピングペーパーなど包装紙やダンボールが、美しくかれんな「サージュやティッシュボックスカバー」に生まれ変わった。

(菊地正志)

漫画家として20年近く活躍した後、看護師になった長瀬さん。「身近な材料を使い、作り方が簡単で、視覚的に美しいものを作りたい」と、そんな思いから普通は捨ててしまうダンボールや包装紙、ラッピングペーパーを植える「Jの手芸」と名づけた。

この作り方を応用して、ビデオケースを使ったレターラック、卓上「ミニ箱カバー」、ティッシュボックスカバー、ウエルカムボード額縁などが製作できる。色とりどりのラッピングペーパーを使った「サージュ」も優



しい風合いで美しく、贈り物などに贈ればいい感じ。

長瀬さんが働く特別養護老人ホーム「春日部勝彩園」のお年寄りたちも「Jの手芸」が大好き。自分で出来上がるのが楽しみ。長瀬さんは「高齢者アートをもっと豊かにしたい」とプランティングフラワーの講習会を開企画している。



プランティングフラワー開発者
長瀬教子

・高齢者アートアドバイザー
・アクティビティディレクター
・第6回週末起業家大賞受賞



新潟県出身。中央大学卒業。

プロの漫画家を15年間、その後老人介護施設で看護職として15年間介護の経験を積む。老人介護施設在職中にシニアのためのエコなフラワー・アートであるプランティングフラワーを開発。また、2006年にはネイルのような装飾品『鉱石つき貼る装飾品』を開発。他にも杖のホルダー『ツエラック』等、さまざまなものを開発、販売も手掛ける。特に、オリジナル高齢者アート(『ウンドウアート』、『ナガセ式ロールピクチャー』等)を数多く開発し、プランティングフラワーとともに多くの介護施設の利用者様方に喜ばれている。さらに、介護の本も執筆、出版。著書の挿絵や漫画も描く。

2006年からは約10年間、主に介護施設職員たちにプランティングフラワーを教え、介護施設等にプランティングフラワーを広める。その間にNHKテレビ出演(2回)や日本経済新聞掲載をはじめ、メディアにも多数取り上げられる。プランティングフラワーの生徒様は日本だけでなく、韓国にも。

【著書】

